



## 第9期 株主通信

平成19年1月1日～平成19年12月31日

時代の変化に即応し

新たな価値を提供する

ランドコムにご期待ください。

# To Our Stakeholders

株主の皆様へ

株主・投資家の皆様におかれましては、平素よりランドコムに格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は平成19年12月19日付で東京証券取引所市場第二部へ上場いたしました。これも皆様のご支援のおかげであると深く感謝しております。

昨今の情勢は、株式の環境も私ども不動産業界の環境も転換期を迎えており、ビジネスを取り巻く環境は一層の変化が進むと考えております。この急激な環境変化は、販売部隊を持たず企画開発に特化してきた当社にとっては追い風であり、さらなる飛躍への好機となっ

ています。当期も少数精鋭の組織体制で「不動産価値の最大化」をテーマに事業を展開してまいりましたが、大幅な増収増益をご報告することができました。

当社は、「不動産流動化事業」「マンション関連事業」「ハウス関連事業」にはじまり、平成18年にはグループ会社による「オペレーション事業」などをスタートさせるとともに、今後の当社成長の核となる「事業推進室」を始動させました。「事業推進室」は、既存3事業（不動産流動化、マンション、ハウス）の事業領域の枠に収まらない、あらゆるプロジェクトに対応しております。具体的な動きとして、当社は次

の2つの事業戦略に取り組んでおります。ひとつは「事業の国際化」です。当社がパイオニアとして先鞭をつけたニセコのさらなる開発及びニセコの海外版ともいえるリゾート開発に取り組んでいます。もうひとつは、「新型収益事業の創造」です。これまでにない不動産価値創造の形をご提案すべく新しいビジネスモデルの開発に注力しております。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ランドコムの進化と成長にご期待ください。

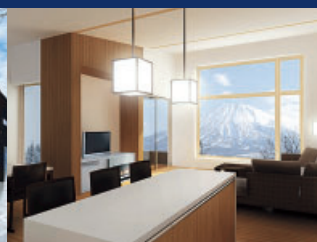
## Roppongi



### 六本木6丁目

東京都港区の六本木駅徒歩2分の好立地に位置する「六本木6丁目」を平成19年3月、54億円にて決済(引渡し)を行いました。

## Niseko



### ニセコ フォレスト エステート

北海道のニセコひらふ地区において、平成19年4月に完売した「ニセコpart I プロジェクト」のコンドミニアムに続き、6月には「ニセコ part II プロジェクト」が始動しました。12月には戸建住宅「ニセコ フォレスト エステート」の分譲を開始しており、平成20年2月には、完売いたしました。

# Topics

都心からリゾートまで、広範な分野で  
不動産価値を最大化する企画開発を行っています。

## Uraga



### 浦賀

神奈川県横須賀市の浦賀港を一望する約21,800㎡の事業用地において、「ランドコム浦賀」プロジェクトが平成19年6月にスタートしました。マリナーポート事業やレストラン事業などの展開を視野に入れたマリーナ複合開発事業を行います。

## Okinawa



### 沖縄

海の眺望と、それに面したビーチ、美しいサンセットを備えた最高のロケーションにビーチリゾートホテルの開発に着手しました。約26,000㎡の敷地に80室のホテル、レストラン、SPA、ショップ等を計画。「Smart and Cozy」をコンセプトに美しい夕陽が眺められる、居心地の良さを追求したビーチリゾートを目指します。

# LANDCOM BUSINESS MODEL

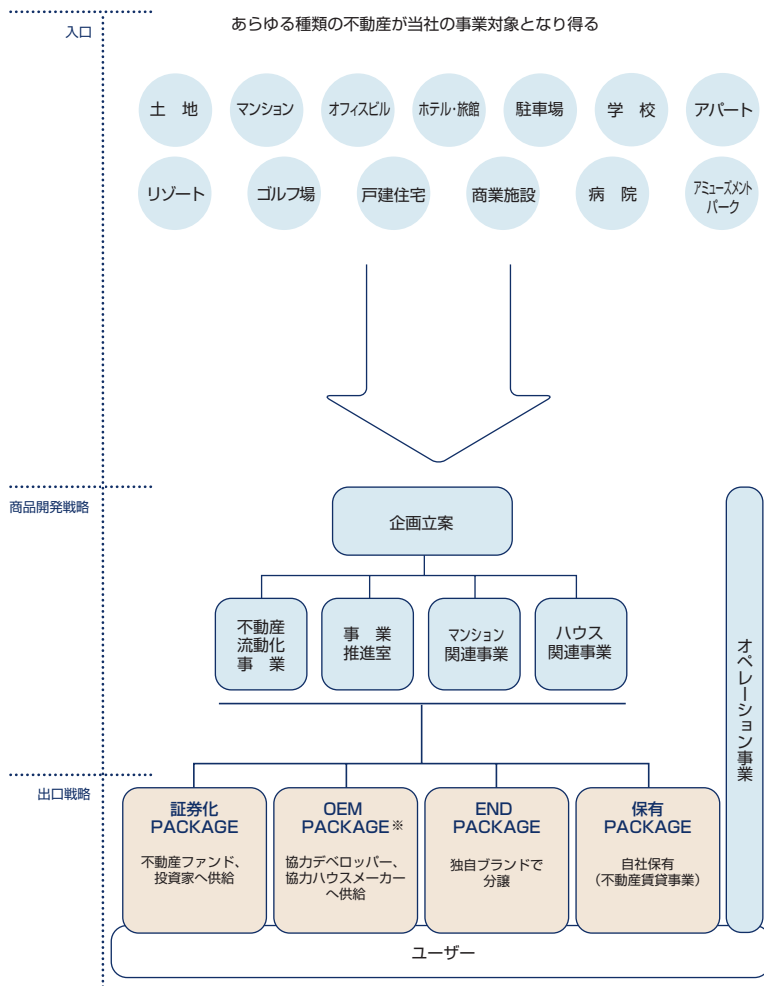
## ビジネスモデル

### 目指すのは「不動産価値の最大化」。

ランドコムはあらゆる種類の不動産を対象にして、こだわりのものづくりをベースにした「不動産価値の最大化」を行っています。

仕入間口の広さとスピーディな対応により、当社には優良な物件情報が数多く集まります。精査して買い付けた物件は、「不動産流動化事業」「マンション関連事業」「ハウス関連事業」、さらに分野を問わない「事業推進室」にてその価値を最大限に引き出します。それらの高付加価値物件は、証券化をはじめ、協力デベロッパー・ハウスメーカーへの供給など、幅広い出口戦略で市場に提供しています。また、当社は販売部隊を持たない企画開発に特化した企業ですから、市場の変化に対応して、ニーズの高い成長分野に経営資源を集中させることが可能です。

こうした独自のビジネスモデルによりランドコムは常に市場が求める不動産を提供し続けることができるのです。



※OEM (original equipment manufacturing)とは、相手先ブランドによる受注生産のことをいいます。当社では、取得した不動産を供給先の意向に基づいて、プロジェクトの企画、開発許可・建築確認の取得等をし、協力デベロッパー・協力ハウスメーカーに供給する事業を意味する用語として使用しています。

# Interview with the President

社長インタビュー



代表取締役社長  
青木 俊実

## Q 当期の業績について お聞かせください。

A 当期のわが国経済は、米国のサブプライムローン問題の影響により不動産市場と金融市場を取り巻く環境が大きく変化したものの、高水準の企業収益などを背景にした設備投資が堅調に推移するなど、景気は概ね回復傾向をたどってきました。

不動産業界におきましても、米国のサブプライムローン問題等の影響を受け、一部に減速懸念が出てきておりますが、都心部を中心とした優良土地の需要が見られるなど、当社グループにとっての事業機会は順調に拡大してまいりました。

こうした状況のもと、当社グループは、「六本木7丁目」「ニセコ ランドマークビュー」をはじめとする不動産流動化事業が好調であったことなどにより、売上高は27,970百万円(前年同期比114.4%増)、経常利益は2,494百万円(前年同期比72.8%増)、当期純利益は1,582百万円(前年同期比96.9%増)の増収増益となりました。

当社は毎年、「売上高ならびに経常利益を前年比50%以上の増収増益にする」という目標を設定し、IPO後は常にこの目標を上回る成果を出してまいりました。当期は「六本木6丁目」(売上計上見

	平成18年12月期		平成19年12月期
売上高	13,048	114.4%up	27,970
営業利益	1,676	127.7%up	3,817
経常利益	1,443	72.8%up	2,494
当期純利益	803	96.9%up	1,582

(単位：百万円)

込み54億円)が来期計上となったにもかかわらず、8月には前年比50%の増収増益を上回る修正を発表することができ、通期の結果はさらなる上方修正となりました。また、当期は都心部での仕入れが順調で、今後の好材料となっております。

これを受け、配当につきましては、普通配当900円、東証二部上場記念配当300円の1,200円とさせていただきます。

当社は引き続き「前年比50%以上の増収増益」を続けることを、売上高1,000億円を達成するまでの会社目標としており、今後もその実現に努めてまいります。

## Q 当期は好調な業績のほかに、 東証二部に上場するなど、 成長の基盤をさらに強固に したと思うのですが。

A 当社は平成19年12月19日付で東京証券取引所市場第二部へ上場いたしました。これにより市場に対する信頼をさらに増すことができ、また、資金調達もより円滑になりました。同時にCSRやコンプライアンスの強化を進め、上場企業としての責任を果たしながら、事業展開を一層強力に推し進める所存です。



成長の基盤を広げたという点では、当期の業績に貢献した「六本木7丁目」も当社にとって大変意義のあるものでした。このプロジェクトは野村ホールディングス株式会社ならびに清水建設株式会社との共同投資によるもので、ワンランク上のビジネスパートナーとの協力関係は当社の成長にとって大きな強みになります。

## Q 好業績と成長を支える ランドコム体制と 思想をお聞かせください。

A 当社は経営理念に、“ランドコムは、「不動産価値の最大化」をテーマに、「志と情熱」を持って進化成長する少数精鋭のプロフェッショナル集団であり続けます。”を掲げています。その実践が、当社の強みとなっている「スピード経営」です。物件情報の入手から買付までを、①即収支・②即現調・③即プラン・④即面談・⑤即買付の5つのステップに分け、これを原則3日で行っています。不動産業界では多くの仲介業者が同じ物件情報を持ち、当社のような買主に商談を持ち込むため、仲介業者は早く商談をまとめなければ手数料収入が得られません。その

### 「スピード経営」5つのステップ

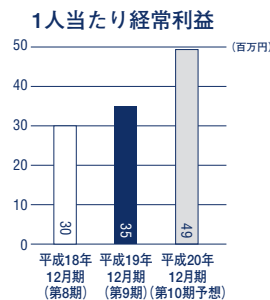
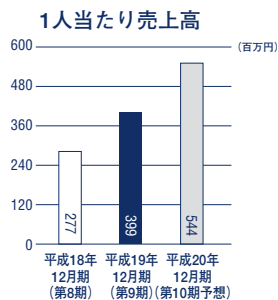
- ①即収支:マーケティングデータをもとに収支計算
- ②即現調:現地に行って確認。また役所で地歴等を調査
- ③即プラン:アウトソーシングを活用した迅速なプランニング
- ④即面談:再度、持ち主と面談
- ⑤即買付:本当に良い案件であると判断したら、買付

ため、迅速な対応ができる買主に対して、優先的かつ継続的に情報を提供できるようになります。わずか3日で買付までもっていく当社には必然的に物件情報が集まるのです。

ここで当社がスピードとともに重視していることが、物件の価値を時代や状況とともに変化させるニーズに合わせて最大化するということです。「変化する需要＝お客様」という考えを持ち、お客様にどれだけ使っていただけるのか、喜んでいただけるのかという度合いを高めます。この度合いが賃貸物件なら家賃とイコールになるわけです。その時代に合った一番良いソフトとハードを提案していくことが、当社が掲げている「不動産価値の最大化」なのです。これを当社は大変なスピードで行っています。

このスピード経営を成り立たせているのが、企画開発に特化し、販売部隊を持たない少数精鋭主義ということになります。販売部隊を抱えないため、無理な仕入れが不要となり、事業環境の変化への対応力に富んだ多彩な事業を外部専門家との効率的なコラボレーション、機動力のある少数精鋭の組織体制にて推進しています。

当社は今後も、こうしたスピード経営、少数精鋭組織を軸に市場環境の変化に柔軟に対応す



る姿勢で、不動産の流動化、不動産事業の多角化、国際化を推進してまいります。

**Q** 今後の成長戦略はどのように考えていますか。

**A** このように当社は、大きな環境変化に瞬時に対応する体制を整えており、変化の予兆をいち早く捉えて、迅速にビジネスを立ち上げることで、その分野のパイオニアとして厚みのある収益を獲得しています。その具体的な取り組みが、冒頭のご挨拶で申し上げた2つの事業戦略です。

まず、ひとつめの「事業の国際化」ですが、ニセコに関しては、「ニセコpart I プロジェクト」において開発・完売したコンドミニアムに続き、「ニセコpart II プロジェクト」の戸建の分譲も完売しました。現在は「ニセコpart III プロジェクト」「ニセコpart IV プロジェクト」が既に始動しており、オーストラリア人を中心とした海外からの観光・投資需要はますます高まっており、今後も注力していきます。このニセコの海外版ともいえるリゾート開発として、「持続ある環境開発・複合的Mix Use開発」を開発コンセプトとした地球に優しい21世紀型高級エコリゾートの開発

に取り組んでいます。ゴルフ場とハーバー付きのコンドミニアムを有するもので、開発には海外の資金も導入し、販売先も主に海外を想定しています。

もうひとつは、「新型収益事業の創造」です。これまでにない不動産価値創造の形をご提案すべく新しいビジネスモデルの開発に注力しています。

**Q** 最後に、市場の変化とランドコム の今後についてお聞かせください。

**A** 冒頭でも申し上げましたが、現在の不動産ビジネスを取り巻く環境は大きな転換点に来ていると思います。不動産業界は、今後ますます進化するビジネスと停滞するビジネスの二極化が進むでしょう。サブプライムローン問題はまだ尾を引くと思いますが、この1年で落ち着いてくると考えています。

そのためにも、当社のような新しい不動産ビジネスに向かって動いている会社が、国内外のステークホルダーに対してアピールしていくことが大切であると思っています。そのためにもランドコムは、国内外のプロジェクトを堅実に推進し、たゆまぬ成長を続けてまいります。



Interview  
with the  
President

## 不動産流動化事業

### 不動産流動化事業の概要

東京都心を中心に商業施設・オフィスビルなどの開発を行い、高収益不動産として不動産投資ファンドや事業法人、投資家などに販売しています。今後は、オペレーション事業と融合させることで、さらなる高収益不動産創造を行っていきます。現在、全体の売上高の80%以上を占める当社の中核事業であり、今後も東京都心を中心に積極的に事業を推進していきます。

### 当決算期の業績について

平成19年12月期の不動産流動化事業においては、外国人向けコンドミニアム「ニセコランドマークビュー（北海道虻田郡倶知安町）」の販売ならびに、東京ミッドタウン前の「六本木7丁目（約300坪）」のTMKへの売却など計6物件の販売を行いました。

その結果、売上高は23,100百万円（前年同期比229.3%増）、営業利益は4,088百万円（前年同期比198.6%増）となりました。

平成20年12月期も東京都心のオフィスビル・商業ビル等の開発を中心に行い、売上高34,863百万円を計画しています。



### 六本木7丁目

所在地／東京都港区六本木7丁目  
建物概要／商業ビル 地上7階地下1階  
竣工／平成21年7月

### ニセコフォレストエステート

所在地／北海道虻田郡倶知安町  
総戸数／5戸  
建物概要／3LDK木造2階建



## マンション関連事業

### マンション関連事業の概要

東京都、神奈川県を中心に「ランドコム」ブランドによる分譲事業を展開しています。また、協力デベロッパーに対するOEM開発事業も行っています。

### 当決算期の業績について

平成19年12月期は、厚木市温水、大田区蒲田の物件を販売しました。その結果、売上高2,484百万円(前年同期比1,811.3%増)、営業利益は217百万円(前年同期は96百万円の営業損失)となりました。

平成20年12月期につきましては、ランドコム上星川スクエア等の販売を行い、売上高2,570百万円を計画しています。



### ランドコム上星川スクエア

所在地／神奈川県横浜市保土ヶ谷区坂本町

交通／相模鉄道線「上星川駅」 徒歩2分

総戸数／21戸

建物概要／分譲マンション、鉄筋コンクリート造地上6階建

## ハウス関連事業

### ハウス関連事業の概要

東京都、神奈川県を中心にコンセプト型住宅ブランド「アーティストホーム」の提供や、協力ハウスメーカーに対するOEM開発事業を行っています。

### 当決算期の業績について

平成19年12月期は、横浜初音ヶ丘、横浜南万騎が原、横浜本宿、鎌倉西御門など計15物件の販売を行いました。その結果、売上高1,711百万円(前年同期比69.6%減)、営業利益は46百万円(前年同期比93.1%減)となりました。

平成20年12月期につきましては、横浜富岡西、横浜白楽等の販売を行い、売上高2,531百万円を計画しています。



### アーティストホームたまプレーザ

所在地／神奈川県横浜市青葉区元石川町

交通／東急田園都市線「たまプレーザ駅」 徒歩17分

総棟数／7棟

建物概要／木造2階建

## その他の事業

その他の事業においては、ランドコムにおける不動産賃貸事業ならびに、子会社の株式会社AVANTIによるオペレーション事業があります。不動産賃貸事業につきましては、平成19年12月期の賃貸収入は513百万円となりました。また、ストック型のビジネスモデルの構築を目指しており、平成20年12月期は100億円の収益不動産の購入、売上高935百万円を計画しています。株式会社AVANTIにおいては「RISTORANTE VENTO MARINO」を運営しており、株式会社テイクアンドグヴ・ニーズとの業務提携によるレストランウェディングも順調に稼働しております。



### RISTORANTE VENTO MARINO

所在地 / 神奈川県中郡大磯町大磯1007 (大磯駅から徒歩1分)

電話番号 / 0463-60-3103 FAX / 0463-60-3104

URL / <http://www.v-marino.com>

営業時間 / ランチ 11:30~14:00 (ラストオーダー)

ディナー 17:30~21:00 (ラストオーダー)

定休日 / 毎週月曜日

## CSR CSR活動

### CO<sub>2</sub>削減に向けての 東京ガスとの共同研究

ランドコムは、持続可能な社会の形成に向けた取り組みとして、分譲戸建住宅にエネルギー効率が高い東京ガスのマイホーム発電「エコウィル」をいち早く標準採用してきたほか、太陽光発電・LED照明など新エネルギーを利用した省エネルギーの取り組みを行ってまいりました。さらに、平成20年2月から、CO<sub>2</sub>削減を目的とする東京ガスとの共同研究の実データ計測を開始。次世代を見据えた省エネルギー性能に優れた商品開発に新たな一歩を踏み出しました。



### スポーツ支援

社会面での取り組みとしては、ジュニアゴルファーの育成支援のため、「日本ジュニアゴルフ協会 (JJGA)」への特別協賛や「ランドカップ・トリプルトーナメント」への協賛を行っています。この取り組みでは、次代を担う子どもたちに「目標を達成する喜び」や「ルールを守り勝利を目指す意味」など、真に大切なマインドをゴルフを通じて身につけてもらうことに主眼を置いています。また、第26回横浜開港祭においては、ランドコムが協賛するジュニアスケートボード教室が開催され、多くの親子連れでにぎわいました。



### 横浜国立大学との共同研究

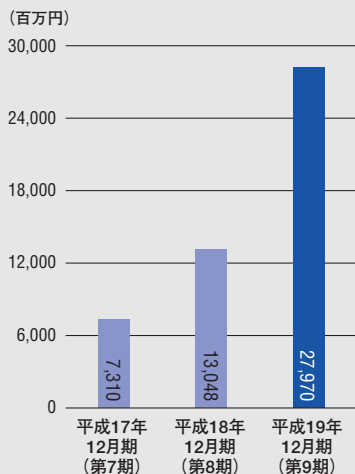
ランドコムでは、高付加価値不動産の開発、および新たなビジネスチャンスを追求するためにY-GSA(横浜国立大学大学院/建築都市スクール)との産学連携による共同研究を行っています。平成17年度から「横浜都心部研究」「横浜郊外住宅地研究」を開始したほか、平成19年からは建築家の山本理顕氏を校長とし、北山恒氏、飯田義彦氏、西沢立衛氏を中心にY-GSAを発足。より幅広い視野を持った研究活動をスタート。それぞれが培った技術やノウハウを結集し、新しい日本の住環境を提案していきます。



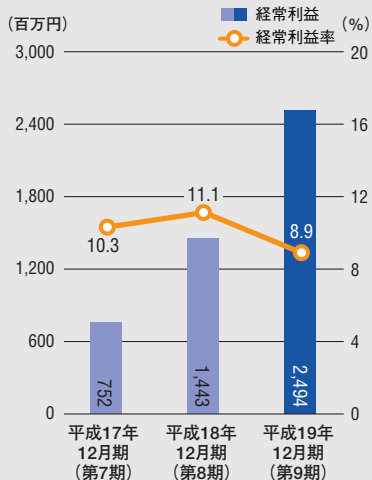
# Financial Highlights

財務ハイライト

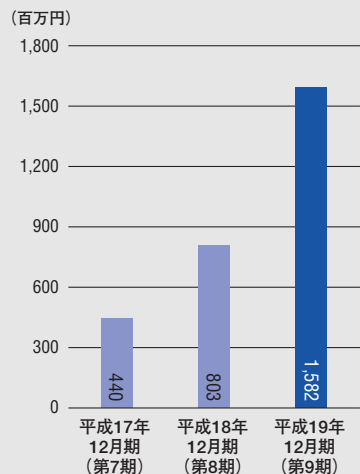
## 売上高



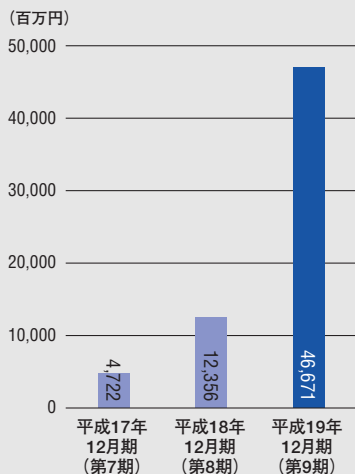
## 経常利益・経常利益率



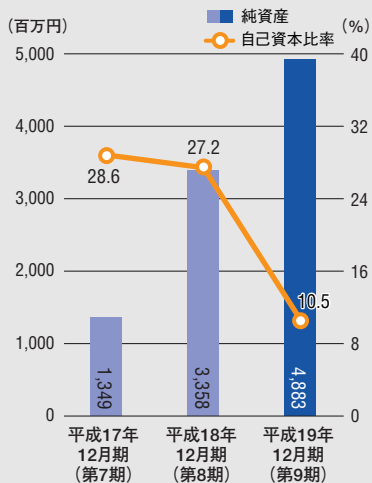
## 当期純利益



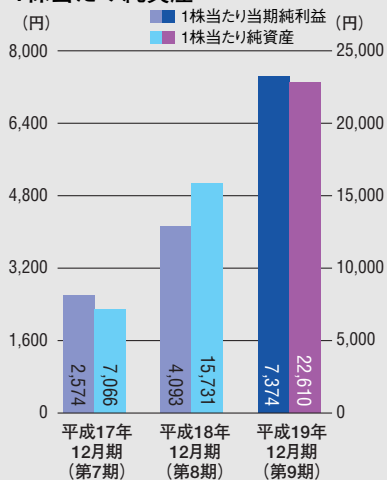
## 総資産



## 純資産・自己資本比率



## 1株当たり当期純利益・1株当たり純資産



※平成18年12月期決算より連結決算数値で作成

# Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科 目	第9期	第8期
	平成19年12月31日 現在	平成18年12月31日 現在
[資産の部]		
流動資産	43,272,772	11,165,667
現金及び預金	1,842,881	986,590
販売用不動産	7,458,256	3,219,441
仕掛不動産	32,965,437	6,328,363
その他	1,006,197	631,273
固定資産	3,398,332	1,190,417
有形固定資産	2,902,469	1,023,117
無形固定資産	5,846	3,372
投資その他の資産	490,016	163,927
投資有価証券	1,762	34,330
繰延税金資産	75,027	31,897
その他	434,626	119,099
貸倒引当金	△21,400	△21,400
資産合計	46,671,104	12,356,085

(単位:千円)

科 目	第9期	第8期
	平成19年12月31日 現在	平成18年12月31日 現在
[負債の部]		
流動負債	26,721,774	3,287,596
短期借入金	7,725,000	1,467,200
一年内返済予定長期借入金	10,674,232	539,467
一年内償還予定社債	160,000	—
その他	8,162,542	1,280,928
固定負債	15,065,437	5,709,723
社債	830,000	220,000
長期借入金	14,008,587	5,406,432
その他	226,849	83,291
負債合計	41,787,211	8,997,319
[純資産の部]		
株主資本	4,902,903	3,358,616
資本金	972,189	953,782
資本剰余金	984,689	966,282
利益剰余金	2,946,023	1,438,551
評価・換算差額等	△19,009	149
その他有価証券評価差額金	186	149
繰延ヘッジ損益	△19,196	—
純資産合計	4,883,893	3,358,765
負債純資産合計	46,671,104	12,356,085

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	第9期	第8期
	平成19年1月1日～ 平成19年12月31日	平成18年1月1日～ 平成18年12月31日
売上高	27,970,487	13,048,737
売上原価	22,428,421	10,376,044
売上総利益	5,542,066	2,672,693
販売費及び一般管理費	1,724,974	996,450
営業利益	3,817,091	1,676,242
営業外収益	67,916	5,387
営業外費用	1,390,790	238,351
経常利益	2,494,216	1,443,278
特別利益	307,605	22,303
特別損失	49,992	62,550
税金等調整前当期純利益	2,751,829	1,403,031
法人税、住民税及び事業税	2,037,525	645,733
法人税等調整額	△867,894	△46,326
当期純利益	1,582,198	803,625

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	第9期	第8期
	平成19年1月1日～ 平成19年12月31日	平成18年1月1日～ 平成18年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△22,737,880	△6,020,921
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,923,090	△206,140
財務活動によるキャッシュ・フロー	25,490,405	6,368,702
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	△170,564	141,640
現金及び現金同等物の期首残高	965,388	823,747
現金及び現金同等物の期末残高	794,823	965,388

連結株主資本等変動計算書(要旨) (平成19年1月1日～平成19年12月31日)

(単位:千円)

科 目	株主資本				評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本合計	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
平成18年12月31日残高	953,782	966,282	1,438,551	3,358,616	149	—	149	3,358,765
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	18,407	18,407	—	36,815	—	—	—	36,815
剰余金の配当	—	—	△74,726	△74,726	—	—	—	△74,726
当期純利益	—	—	1,582,198	1,582,198	—	—	—	1,582,198
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	37	△19,196	△19,158	△19,158
連結会計年度中の変動額合計	18,407	18,407	1,507,471	1,544,286	37	△19,196	△19,158	1,525,127
平成19年12月31日残高	972,189	984,689	2,946,023	4,902,903	186	△19,196	△19,009	4,883,893

# Financial Statements

## 個別財務諸表

### 貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科 目	第9期	第8期
	平成19年12月31日 現在	平成18年12月31日 現在
〔資産の部〕		
流動資産	43,235,732	11,092,161
固定資産	3,457,545	1,289,188
有形固定資産	2,902,469	1,021,889
無形固定資産	3,809	3,372
投資その他の資産	551,266	263,927
資産合計	46,693,277	12,381,350
〔負債の部〕		
流動負債	26,705,989	3,274,259
固定負債	15,069,553	5,722,833
負債合計	41,775,543	8,997,093
〔純資産の部〕		
株主資本	4,936,743	3,384,107
資本金	972,189	953,782
資本剰余金	984,689	966,282
利益剰余金	2,979,864	1,464,043
評価・換算差額等	△19,009	149
純資産合計	4,917,734	3,384,257
負債純資産合計	46,693,277	12,381,350

### 損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	第9期	第8期
	平成19年1月1日～ 平成19年12月31日	平成18年1月1日～ 平成18年12月31日
売上高	27,889,328	13,048,820
売上原価	22,374,746	10,375,770
売上総利益	5,514,582	2,673,050
販売費及び一般管理費	1,613,079	984,241
営業利益	3,901,502	1,688,809
営業外収益	77,900	7,556
営業外費用	1,390,766	227,625
経常利益	2,588,635	1,468,740
特別利益	307,605	22,303
特別損失	136,422	62,550
税引前当期純利益	2,759,818	1,428,493
法人税、住民税及び事業税	2,037,165	645,703
法人税等調整額	△867,894	△46,326
当期純利益	1,590,547	829,116

### 株主資本等変動計算書(要旨) (平成19年1月1日～平成19年12月31日)

(単位:千円)

科 目	株主資本						評価・換算差額等			純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	その他 有価証券 評価 差額金	繰延 ヘッジ 損益	評価・ 換算 差額等 合計	
		資本 準備金	資産 剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利 益 剰余金 合計					
平成18年12月31日残高	953,782	966,282	966,282	1,464,043	1,464,043	3,384,107	149	—	149	3,384,257
事業年度中の変動額										
新株の発行	18,407	18,407	18,407	—	—	36,815	—	—	—	36,815
剰余金の配当	—	—	—	△74,726	△74,726	△74,726	—	—	—	△74,726
当期純利益	—	—	—	1,590,547	1,590,547	1,590,547	—	—	—	1,590,547
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	37	△19,196	△19,158	△19,158
事業年度中の変動額合計	18,407	18,407	18,407	1,515,820	1,515,820	1,552,635	37	△19,196	△19,158	1,533,477
平成19年12月31日残高	972,189	984,689	984,689	2,979,864	2,979,864	4,936,743	186	△19,196	△19,009	4,917,734

# Corporate Data

会社データ (平成19年12月31日現在)

## 会社概要

商号	ランドコム株式会社 LANDCOM Corporation
設立	平成11年1月29日
資本金	972,189,705円
従業員数	70名(連結)、59名(単体)
本社所在地	〒220-8145 横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー45F TEL.045-664-2001
東京支店	〒106-0045 東京都港区麻布十番四丁目1番9号 ランドコム麻布十番 TEL.03-6436-0063
連結子会社	株式会社AVANTI、ランドアイ株式会社

## 取締役および監査役 (平成20年3月28日現在)

代表取締役社長	青木 俊実	取締役	松田 尚史
常務取締役	川田 勇次	取締役	岡崎 由雄
常務取締役	谷沢 英樹	常勤監査役	中村 昌平
取締役	上田 宏幸	常勤監査役	中島 澄雄
取締役	高村 正雄	監査役	黒田 徹

## IRサイトのご案内



当社は株主の皆様に必要なIR情報をホームページで公開しています。

<http://www.landcom.co.jp/ir/>



モバイルサイト <http://m-ir.jp/c/8948>

# Stock Information

株式情報 (平成19年12月31日現在)

## 株式の状況

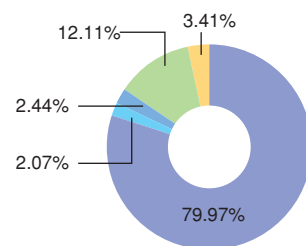
発行可能株式総数	440,000株
発行済株式総数	216,005株
当期末株主数	4,807名

## 大株主情報

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
青木 俊実	103,550	47.93
有限会社エス・オー・ピー	17,979	8.32
株式会社サニーインベストメント	5,000	2.31
川田 勇次	3,500	1.62
棚沢 青路	2,943	1.36
エイチエスピーシー バンク ビーエルシー クライアーツ ノンタックス トリーティ	2,660	1.23
中部証券金融株式会社	2,243	1.03
大和証券株式会社	2,081	0.96
日興コーディアル証券株式会社	1,994	0.92
佐藤 忠司	1,906	0.88

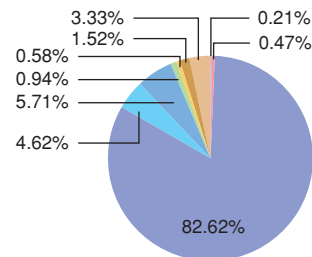
## 所有者別株式分布状況

個人・その他	172,731株
金融機関	4,479株
金融商品取引業者	5,276株
その他国内法人	26,159株
外国人	7,360株



## 地域別株式分布状況

北海道	460株
東北	1,004株
関東	178,455株
中部	9,986株
近畿	12,333株
中国	2,034株
四国	1,250株
九州	3,280株
外国	7,203株



## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月開催
基準日	定時株主総会の議決権 12月31日 期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、やむをえない事由により電子公告を することができない場合は、日本経済新聞に 掲載します。 公告URL ( <a href="http://www.landcom.co.jp">http://www.landcom.co.jp</a> )
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	(電話照会先・郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 証券代行事務センター ☎0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内) ☎0120-78-2031 (平日9:00~17:00：オペレーター対応)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

### 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 8948

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイトに  
ある検索窓に、いいかぶと4文字  
入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

[kabu@wjm.jp](mailto:kabu@wjm.jp)へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に  
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」  
TEL:03-5777-3900 (平日10:00~17:30) MAIL: [info@e-kabunushi.com](mailto:info@e-kabunushi.com)

IRに関するお問合せ

## ランドコム株式会社 経営企画室

〒220-8145 横浜市西区みなとみらい2-2-1  
横浜ランドマークタワー45F  
TEL:045-664-2001 (代表) FAX:045-664-2003  
E-mail: [ir@landcom.co.jp](mailto:ir@landcom.co.jp)

